

新商品概要 / トピックス

「究極のユーザビリティ」を実現したカラーLEDプリンターを新発売

2020年10月22日

OKIは、医療や流通・小売業などにおける「限られたスペースでのプリンター運用」という課題解決にフォーカスしたカラーLEDプリンター「COREFIDO C650dnw」(以下、C650dnw)を発売しました。



COREFIDO C650dnw

印刷が欠かせないお客さまに「究極のユーザビリティ^{※1}」を提供するため、業界初の技術「Space Saving Technology (スペースセービングテクノロジー)」の搭載によるクラス世界最小の本体サイズ^{※2}、設置スペース・メンテナンススペースの最小化^{※3}と高い生産性を両立した商品です。

※1：究極のユーザビリティ
OKI従来機との比較。

※2：クラス世界最小
連続プリント速度25ppm以上(A4片面)のA4カラーLEDレーザープリンターの本体体積において、2020年9月現在、OKI調べ。

※3：設置スペース・メンテナンススペースの最小化
OKI A4カラーLEDプリンターとの比較。

アピールポイント

C650dnwは、バックヤードやカウンターなどの限られたスペースで使用されることが多い医療や流通・小売業での出力業務において、お客さまの業務効率を落とさずに本体サイズや設置スペース・メンテナンススペースを削減することを目指し、構

造から見直した製品です。C650dnwに搭載された「スペースセービングテクノロジー」は、次の3つの新技術で構成されます。

1. 消耗品交換時は格納されているバスケットを前面に引き出し、紙詰まり発生時には上面側にバスケットを持ち上げて対応ができる「デュアルモーションドラムバスケットシステム」
2. 装置内の空いたスペースにトナーを搬送するルートを自由に形成する「フレキシブルトナー輸送システム」
3. 従来はトップカバーを開かないと交換できなかった定着器をダイレクトに着脱可能とする「定着器ダイレクトアクセスシステム」

これらの新技術により本体サイズを小型化しただけでなく、メンテナンス作業が前面から行える業界初の「フルフロントアクセス構造」で、メンテナンススペースの最小化を実現しました。

また、毎分35ページ・ウォームアップタイム約11秒の高速印刷、装置寿命60万ページ(または5年)の高耐久性を実現し、お客さまの業務効率改善、生産性の向上に貢献します。さらに、低負荷現像方式の採用によりイメージドラムを長寿命化(印刷可能枚数5万枚)するほか、特殊用紙(耐水紙、短冊熨斗<のし>、葉袋など)への印刷にも対応しています。

なお、C650dnwは5年間無償保証、メンテナンス品5年間無償提供の長期無償サービスに対応しています。

●お問い合わせ先：お客様相談センター
TEL.0120-654-632
※携帯電話、IP電話からは 0570-055-654

ローカル5G支援サービスの販売を開始

2020年11月17日

お客さまのローカル5Gの導入を支援する「ローカル5G支援サービス」の販売を開始しました。本サービスの活用により、企業や自治体は無線局免許申請などの手続きや専門的知識を必要とせず、スムーズにローカル5Gの導入が可能となります。OKIの強みであるAIエッジ技術とローカル5Gを組み合わせる「AIエッジ×5G」により、お客さまのデジタル変革(DX)を推進します。

アピールポイント

通信キャリア事業者の5Gサービス開始により、企業などがプライベート空間に独自の無線局を開設し自営ネットワークとして活用する「ローカル5G」に注目が集まっています。しかしながら、自営無線システム導入には、高度な専門知識や、導入・運用に関するノウハウが必要です。

OKIは、全国に展開している防災無線システムやETCシステムなど、数多くの無線システムの構築で培ったノウ

ハウを活かし、無線局免許申請から無線通信環境を確認するための電波伝搬測定、無線ネットワーク設計・構築まで、ローカル5G導入のために必要な全工程にわたる支援サービスを提供します。これによりお客さまのローカル5Gの確実な導入を支援します。

なおOKIは、ローカル5G運用における知見を高め、さらなるサービス向上につなげるべく、本庄工場(埼玉県本庄市)にローカル5G実験試験局を開設しました。製造現場、並びに工場敷地内に設置されたテストコースへローカル5Gを導入し、2020年12月～2021年3月にかけて「AIエッジ×5G」の社会実装に向けた実証実験を行いました。

●お問い合わせ先：
OKI ソリューションシステム事業本部 IoT事業推進センター
URL：<https://www.oki.com/cgi-bin/inquiryForm.cgi?p=223j>

ニューノーマルで加速するコンタクトセンターのDXを実現する 「CTstage Cloud™」及び「CTstage 7DX™」を販売

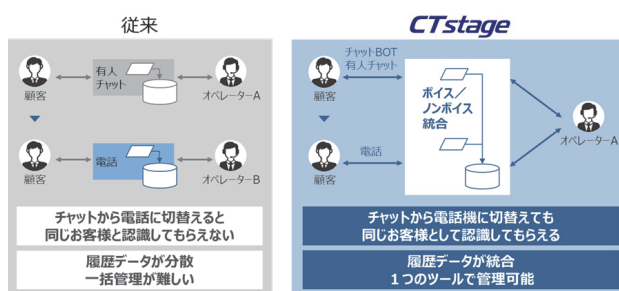
販売開始:CTstage Cloud 2020年10月28日
CTstage 7DX 2021年 3月18日

OKIは、コンタクトセンターのデジタルシフトを目指すお客さまに対応し、Microsoft Azure上のコンタクトセンタークラウドサービス「CTstage Cloud」およびオンプレミス(自社運用)型「CTstage 7DX」の販売を開始しました。この品揃えにより、早期に手軽にコンタクトセンターを立ち上げたい事業者、主に自社業務に合わせた本格的なシステムの構築を目指す事業者へ幅広く対応します。



「CTstage Cloud」および「CTstage 7DX」は、CTstage販売開始以来、25年間培ってきた豊富な機能とサポートサービスに加え、コンタクトセンターのDXを実現する新機能を搭載し、お客さまの行動様式の変化に対応した「ボイス(音声)/ノンボイス(非音声)統合機能」を備えた新しいコンタクトセンターを実現します。

コンタクトセンター事業者は企業と消費者とのコミュニケーションスタイルのデジタル化や急激な行動様式の変化、さらには需要変動に伴うオペレーター配置・運用変更柔軟かつ迅速な対応に迫られています。本商品群は、ボイス(音声)/ノンボイス(非音声)システムの統合に加え、事業者による各種設定変更が可能で、需要変動や取扱品目変更、オペレーター拠点分散化・在宅化など、事業環境の変化に対応した最適なコンタクトセンターの構築を実現します。



ボイス(音声)/ノンボイス(非音声)システムの統合

●お問い合わせ先:OKI ソリューションシステム事業本部 IoTプラットフォーム事業部
URL: <https://www.oki.com/cgi-bin/inquiryForm.cgi?p=043j>

ギターケーブル「MOGAMI 2524」をプラグ付で発売

2021年1月13日

OKI電線の関係会社で音響関係に特化したケーブルの製造販売を手掛けるモガミ電線は、ギターケーブル「MOGAMI 2524」にプラグを実装した4モデルを、初めて国内の一般ミュージシャン向けに販売しました。プラグには、欧米を拠点として大きなシェアを持つオーディオコネクタメーカー「ノイトリック社」の、堅牢・信頼性に優れた使い勝手に定評がある「NP2 BAGシリーズ」を採用し、多くのミュージシャンの理想的なサウンドメイクに貢献します。



プラグ付きMOGAMI 2524ギターケーブル

アピールポイント

モガミ電線のギターケーブル「MOGAMI 2524」は、欧米をはじめ世界の多くのプロミュージシャンや音楽愛好家から音質の良さで支持を集め、古くから「MOGAMI」ブランドとして市場に浸透しています。海外ではケーブル単体に各国の販売代理店がプラグ付けを行った製品が広く利用されていますが、日本国内では主にケーブル単体での流通だったため、プラグ付けした完成品のMOGAMIケーブルを求める声は多く、これに答えて今回の新商品をリリースしました。

プラグ付きMOGAMI 2524ギターケーブルは、フラットでシャープ、クセの無い音質が特徴的で、なおかつ柔軟で取り回しが容易なバランスの取れたモデルです。絶縁体とシールドの間に導電性樹脂層を施すことで静電気によるノイズを抑制して優れた音質を実現し、ギターやベース、キーボードなど多くの電子楽器で使用できます。

●お問い合わせ先:OKI電線 お客様相談窓口 TEL.0120-087091(フリーダイヤル)

EMSユーザー向けに「オンライン工場立会」のサービスを開始

OKIは、EMS(電子機器・電子部品の設計・製造受託)事業のお客様向けに、汎用のインターネット会議システムと高解像度カメラを活用した「オンライン工場立会」の体制を構築し、2月12日よりサービスを開始しました。お客様の製品を製造する工場内の現場をオンラインで見せながら、設計・製造の匠(プロフェッショナル)たちが直接その内容を説明し、質疑・相談や個別の要求に対応します。従来お客様立会のもと工場内で実施していた試験・検査や工程監査、視察、技術検討会などがオンラインで可能となるほか、OKIに設計・製造委託を検討しているお客様の工場見学にもご利用いただけます。コロナ禍においても実際の製造現場を確認したいというお客様の要望にお応えするとともに、移動に伴う時間・費用と感染リスクを低減します。「オンライン工場立会」では、可動台車にカメラを設置し、お客様のニーズにあわせて個別に見学ルートを設定します。お客様は、HD相当のビデオカメラによる高画質配信により、現場の設



オンライン工場立会の様子

2021年2月10日

備や機器などの様子を、細かい箇所まで鮮明に確認できます。また技術者によるリアルタイムでの説明や質疑応答に加えて、初めてOKIの工場を見学されるお客様にもわかりやすいよう、各ラインや機器の特長を詳細に紹介するVTRや説明資料も用意しています。お客様はご自身のオフィスやテレワーク先に居ながらにしてOKIのモノづくりを実感することができ、工場まで移動する費用・時間や新型コロナウイルス感染症への感染リスク、感染予防策の負担を低減することも可能となります。

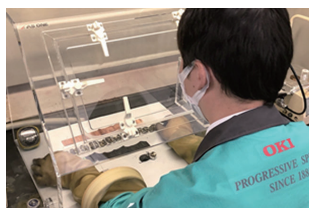
OKIは「オンライン工場立会」サービスを、設計、評価、基板、電線、板金・電源、基板実装、装置組立など幅広いプロセスからなるEMS事業(全国11拠点)のうち、まずEMS本庄工場、OKIサーキットテクノロジー、OKIエンジニアリングの3拠点で開始し、順次、全プロセスに展開していきます。これにより、複数拠点にまたがる立会もワンストップで実施することができるようになります。OKIは引き続き、モノづくりプラットフォームの強化、EMS事業の充実により、お客様の設計・開発・生産を支援してまいります。

●お問い合わせ先:

OKI コンポーネント&プラットフォーム事業本部 EMS事業部
URL:<https://www.oki.com/cgi-bin/inquiryForm.cgi?p=030j>

「リチウムイオン電池の焼損事故解析サービス」を開始

OKIエンジニアリング(以下、OEG)は、モバイル機器やウェアラブル端末などに搭載されるリチウムイオン電池の焼損事故時に迅速・確実な原因特定を行う解析サービスを開始しました。



低酸素状態での
リチウムイオン電池の分解の様子

2021年3月2日

もとにも、X線CT検査を実施して焼損品の内部構造を把握した上で、爆発を考慮した低酸素状態で分解し、事故原因を特定します。事故製品と同じ環境で使用されていた製品や同じロットの製品に対し、充放電試験器を用いた充放電サイクル^{※2}やスタンバイ状態保持^{※3}などの耐久性評価や、低周波での内部抵抗測定^{※4}による劣化状態の調査を行い、事故製品が経年劣化を起こしていたのか、元々不良品だったのかなどを確認することも可能です。

アピールポイント

近年、モバイル機器やウェアラブル機器に加え、モーター駆動用途向けにリチウムイオン電池の利用が拡大・加速していることに伴い、リチウムイオン電池の発火・発煙・発熱の事故が多発しています。このような事故製品は焼損により事故の痕跡が残りづらく、事故原因が電池単体によるものか、あるいは実装基板やユーザーの使用環境によるものかといった特定が困難です。事故発生時、企業は多くの場合、エンドユーザーや独立行政法人 製品評価技術基盤機構^{※1}に対する調査報告書の提出を求められますが、「原因不明」とせざるを得ないケースも多く発生しています。

「リチウムイオン電池の焼損事故解析サービス」では、OEGがこれまで実施してきたリチウムイオン電池の非破壊検査の知見を

※1: 独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE)

工業製品などに関する技術上の評価や品質に関する情報の収集・提供などを業務としている経済産業省所管の独立行政法人で、収集した事故情報の調査結果を報告書として公開している。

※2: 充放電サイクル

一定温度、時間、サイクル回数の条件下で、放電と充電を繰り返した後、放電容量を測定し、初期の電池容量からの低下(劣化)具合を評価する電池の性能を評価する手法。

※3: スタンバイ状態保持

電池は使用しなくても自己放電により充電容量の低下が進行する。長期間、容量を保持している状態が望ましく、電池を満充電した後に一定期間放置してどの程度充電が残っているかによって電池の性能を評価する。

※4: 内部抵抗測定

電池の放電能力は内部抵抗として表される。初期と比べて内部抵抗がどの程度低下したかによって電池の放電能力の劣化具合を評価する。

●お問い合わせ先:

OKIエンジニアリング 信頼性ソリューション事業部
URL:<https://www.oki.com/cgi-bin/inquiryForm.cgi?p=k120>

光ファイバーセンサー向け「WX1034光スイッチ」を販売開始

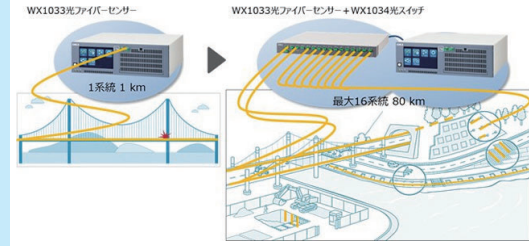
2021年3月2日

光ファイバーセンサーWX1033シリーズに接続される16系統の光ファイバーを集約し、1台のセンサーで最大80kmにわたる温度分布やひずみ分布の測定を可能にする「WX1034光スイッチ」の販売を開始しました。橋梁などの社会インフラに対し広範囲に実施する光ファイバーセンサーによる測定やモニタリングの効率を、大幅に向上することができます。



WX1034光スイッチ

ファイバーあたり約20秒間隔で連続測定できるので、エッジサーバーやクラウドシステムなどと組み合わせて、遠隔から高効率に測定・モニタリングを行うIoTシステムの構築も可能となります。



光ファイバーセンサーと光スイッチの組み合わせ図

アピールポイント

「WX1034光スイッチ」を光ファイバーセンサーWX1033シリーズと組み合わせることで、最大16系統の光ファイバーによる測定が可能です。これにより1台の光ファイバーの測定距離を1系統1kmから16系統80kmまで拡張でき、測定距離あたりの導入コストを大幅に軽減します。さらに複数の光ファイバーをつなぎ替えせずに測定チャンネルを自動で切り替えながら、1系統の光

なお、OKIは「WX1034」の販売開始に先立ち、鹿島建設株式会社と共同で、光ファイバーを組み込んだ複数のグラウンドアンカーの張力を「WX1034」と1台のセンサーでリアルタイムに把握できるシステムを開発し、その有効性を確認しています。

●お問い合わせ先: OKI ソリューションシステム事業本部 IoTプラットフォーム事業部
URL: <https://www.oki.com/cgi-bin/inquiryForm.cgi?p=181j>

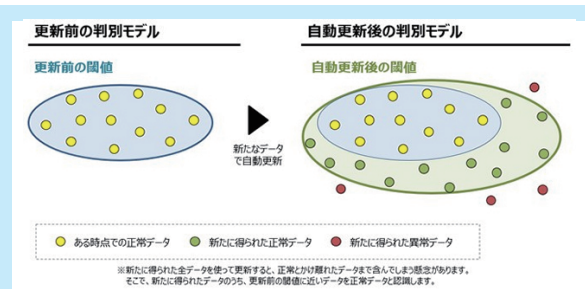
AIによる「追加学習モード」を備えた波形解析ソフトウェア ForeWave® for AE2100 Ver.3.0の販売を開始

2021年3月4日

AIエッジコンピューター「AE2100」のAIライブラリーの一つである波形解析ソフトウェア「ForeWave for AE2100」に「追加学習モード」を加えた「ForeWave for AE2100 Ver.3.0」の販売を開始しました。導入後の環境変化によって正常状態の閾値が変化する設備やインフラ構造物での異常・予兆検知において、AIが閾値となる判別モデル^{※1}を自動更新し、検知精度の向上を実現します。

アピールポイント

深刻な労働力不足のなか、設備やインフラ構造物の効率的な保全が求められています。従来の人手による定期検査は故障の兆候を迅速に検知できない場合があるうえ、一定の費用が発生します。また、複雑な設備状態の認識は難易度が高いため、技術継承が困難となっています。こうした背景からAIを用いた波形データ解析による異常・予兆検知へのニーズが高まっていますが、検知には異常を判別するための閾値を事前に定義する必要がありますが、設備や構造物によっては、異常発生が少なくデータが取りにくい、あるいは設置後の動作環境の条件変化により正常状態を示すデータに振幅が生じる、などの課題がありました。



追加学習モードの概要

「ForeWave for AE2100 Ver.3.0」は、設備動作や環境条件の変化に応じた正常データの振幅をエッジで自動学習する「追加学習モード」により、運用中に得られたデータに応じた正常状態の閾値の拡張をAIが自動学習し、判別モデルを自動更新します。これにより導入後の環境変化に合わせた異常・予兆検知が可能となり、従来は適用が難しかった設備・構造物への状態基準保全^{※2}適用により、保全業務の効率化を実現します。

●お問い合わせ先:
OKI ソリューションシステム事業本部 IoTプラットフォーム事業部
URL: <https://www.oki.com/cgi-bin/inquiryForm.cgi?p=181j>

- ※1: 閾値となる判別モデル
正常と異常を区別する閾値で「ForeWave for AE2100」の導入に必須のコンポーネント。
- ※2: 状態基準保全
設備状態を監視して劣化兆候を把握することにより、劣化状況にあわせて、その都度メンテナンスを行う保全方法。メンテナンスが不要な正常動作している設備への対応が不要となり、設備保全の効率化につながる。